



顧客コミュニティと地域コミュニティの創造と育成をめざす

原産業(株) (本社〓さいたま市中央区)



「はら祭り」のようす。一般向けの企画として、石ころアートやご縁はがきなどのワークショップ、小物の販売も実施。キッチンカーも用意された。講演会も開催され、原社長（写真左下）は趣旨を説明した

原産業(株)（原真社長）は去る五月十九日、二十日の二日間、同社展示場で「はら祭り」を開催した。初日は石材業者、二日目は石材業者と一般が対象で、昨年が続いて四回目の開催となった。

「はら祭りの目的は、顧客コミュニティと地域コミュニティの創造と育成です。お取引引き先の石材店の皆さま、お取引引き先関係店の皆さまとの交流、一般の方々との交流の場をつくり、人、モノ、情報が集まることによって、新たなコトが生まれればいいなと思っています」

原社長はそう話す。同社展示会は「全国石屋まつり」として長らく行なわれてきたが、二〇一八年からは趣旨を変え、「はら祭り」として開催されてきた。コロナ禍により開催できない年もあったが、地元で恒例の「バラまつり」に集まる人を取り込むことで、これまでつながり



レーザータッチ仕上げの洋型墓石（右奥）と、根府川石の自然風墓石

のなかった一般の方々との関係を構築してきた。もちろん、取り引き先石材店を「蔑ろ」にしていくわけではなく、これまで同様に新たな提案を毎回しており、今回はレーザータッチ仕上げの洋型墓石、根府川石の自然風墓石、佐賀県産の天山みかげの墓石、新石種「河南ブルー」の墓石の展示など、新たな商材を幾つも用意した。

「現在は特に国産材の販売に力を入れていきます」と原社長。リニューアルしたホームページでも、庵治、真鶴など国内産地とのつながりをアピールし、YouTube動画では国内丁場の紹介も行なっている。メールマガジン「はら子屋便り」も配信し、さまざまな方法で同社らしさを発信、差別化を図っている。



リニューアルした原産業(株)のホームページ

取り引き先石材店を対象に、「はら子屋」と称した勉強会も開催している。こちらもコロナ禍で間が空いてしまったが、昨年一回、今年は二回とこれまでに四回開催した。今年一月には(株)田口石材(岐阜県中津川市)の田口博史専務を講師に招き、「日本の鳥居」と題して、二月には(有)誠石材工業(千葉県松戸市)の湯浅篤社長を講師に招き、「石材店が駄菓子売り始めたら…」と題して勉強会を行なった。



今年1月に開催された「はら子屋」のようす。写真提供＝原産業(株)

「産地・卸・小売りが一体となって知識や情報を共有し、一般への提案方法を考える。また一般の方々との接点や関係づくり、取り組み事例を共有し、参考にして実行していけるような、



今年のゴールデンウィークに開催したバーベキュー大会のようす（上）と、昨年開催したハロウィンのようす。写真提供＝原産業㈱

共に高め合える顧客コミュニティを育んでいきたいです」

地域コミュニティの創造・育成に関しては、「はら祭り」の開催だけではなく、花火大会や他の地域企業と一緒にハロウィンなども行なっている。今年のゴールデンウィークにはバーベキュー大会を開催し、八組の一般家族が参加して大盛況だった。いずれの企画も地元の子育て支援をしている「しばふハウス（三尾代表）」が主体で、原社長は「場所を提供しているだけ」というが、立派な地域コミュニティの創造・育成活動といえるであろう。

「キーワードは心の豊かさです。心の豊かさとは何かというと、目に見えないものを大切にすることです。目に見えないものはいろいろあると思いますが、命の元である数多の先祖とのつながりであったり、数多の人がいるなかでの出会い、つながりといったご縁を考えています。そうした目には見えないものを大切にすると、心の豊かさを育むことに貢献できればと思います」

「はら祭り」におけるワークショップの一つ

企業広告スペース

◎「ご縁はがき」の普及活動をしている玉城麻衣さんのコメント

「ご縁はがき」は誰かに渡すことが前提で、うまく書く、自分を磨くという「書道」とは違います。自分の気持ちを自分で紙に書くことに意味があり、個性が一番出るのが筆ペンだと思って、筆ペンの使用をお薦めしています。

最初は「難しい」といわれますが、書いているうちに「楽しい」「時間を忘れる」、そして「お父さんにも書きたい」「お母さんにも書きたい」と、書きたい人がどんどん増えてくるようです。

不器用でも自分自身で書く文字、時間に意味があります。一期一会の出会い、ご縁を大切に。原社長とも価値観が通じる場所があり、昨年から招いてもらっています。



「はら祭り」に来場したお子さんに「ご縁はがき」のワークショップをする玉城さん（右）



今回の「はら祭り」では、人型ロボットのPepper（ペッパーくん）を使い、「いのちの積み木」ワークショップも行った



「はら祭り」の会場内でスタンプラリーを実施することで、会場全体を見てもらうことができる

として「ご縁はがきブース」があった。筆ペンを使用して、はがきに両親やおじいちゃん、おばあちゃん、友人、知人などにメッセージを書いて贈るワークショップで、人と人との一期一会のご縁を大切にしようために、「ご縁はがき」の普及活動を行なう玉城麻衣さんが担当した。活動の趣旨に共感した人が集い、協力して物事を進める好例といえるであろう。

「顧客コミュニティも地域コミュニティも、

すぐにできて深まるものではないので、時間をかけて育んでいきたいと思っています」
社長に就任して三年目となる原社長。こうした取り組みから、どういったコトが生み出されてくるのか注目である。

◎原産業(株)

本社 さいたま市中央区本町西3・6・15

TEL 048・853・2381

<https://harasangyo.co.jp/>